

令和5年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

中学校（音楽）問題

「始め」という合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。

注 意

- 1 この問題は7問4ページで、時間は60分です。
- 2 解答用紙は、別紙で配布します。「始め」の合図で始めてください。
- 3 解答は、それぞれの問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 「やめ」の合図があったら、すぐやめて係の指示に従ってください。
- 5 解答用紙を持ち出してはいけません。

令和 5 年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

中学校 音楽

1 次の (1) ~ (5) に答えよ。

- (1) リコーダーを演奏する際に用いられる「サミング」について説明せよ。
- (2) 箏曲における「段物」について説明せよ。
- (3) 「allargando」の用語の読み方と意味を記せ。
- (4) 「Andante」の用語の読み方と意味を記せ。
- (5) イ短調の主要三和音すべてを全音符で記せ。

2 次は、ある楽曲の一部分を示したものである。下の (1), (2) に答えよ。

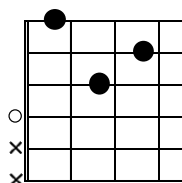


- (1) この楽曲の作曲者を記せ。
- (2) この楽譜を D dur に移調して記譜せよ。

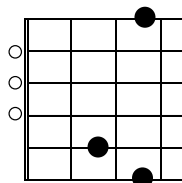
3 次の (1) ~ (3) に答えよ。

- (1) 次の①~③はギターコードのダイヤグラムである。それぞれが表すコードネームを記せ。
ただし、○は開放弦, ●は指で弦を押さえる位置, ×は弾かない弦を表すものとする。

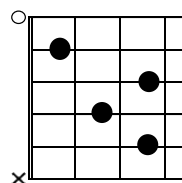
①



②



③



(2) 太鼓の中で最も一般的な楽器で、祭囃子や盆踊りなどに用いられ、別名「鉦打太鼓」とも呼ばれる太鼓の名称を記せ。

(3) 次は、尺八の構え方についての説明文である。①～③にあてはまる指の名称をそれぞれ記せ。なお、同じ番号には同じことばが入るものとする。

左右どちらの手を上にしてもよいが、左手を上にする場合、まず右手の（ ① ）を一孔と二孔の間に置き、その真裏に（ ② ）を置いて支えとする。指孔は、右手の（ ③ ）で一孔、人さし指で二孔、左手の（ ③ ）で三孔、人さし指で四孔、（ ② ）で五孔をふさぐ。

4 ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの2重奏ができるよう、8小節からなる旋律を作曲し、解答用紙に記せ。ただし、F dur, 4分の4拍子として、中学生がソプラノリコーダーとアルトリコーダーで演奏ができることを想定して作曲すること。

5 次は、共通教材『花』の3番の一部分を示したものである。下の(1), (2)に答えよ。

に し き お りー なー す ち ょ うー て い に
く る れ ば のー ぼー る お ぼ ろ づ き

(1) この楽曲の作詞者と作曲者を漢字で記せ。

(2) この3番の一部分を歌唱教材として第3学年で扱う場合、次の①, ②に答えよ。

- ① 作曲者が1小節目と7小節目に示した強弱記号の意図を生徒に考えさせるとき、どのような意見を述べると予想できるか、記せ。
- ② あなたが、実際に強弱を意識して生徒に歌唱させるとき、どのような指導を行うか、具体的に記せ。

6 次の(1), (2)に答えよ。

- (1) 次は、中学校学習指導要領解説「音楽編」の「第2章 音楽科の目標及び内容 1 教科の目標」の一部である。下の①～⑤にあてはまることばを記せ。

音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや(①), 生活や社会, 伝統や(②) などと関連付けること」であると考えられる。

「音楽に対する感性」とは、音や音楽のよさや美しさなどの(③)な世界を価値あるものとして感じ取るとき(④)の働きを意味している。音楽科の学習は、生徒が音や音楽の(⑤)に気付き、それらを主体的に捉えることによって成立する。

- (2) 歌唱表現をする際に変声期及び変声前後の生徒に対してどのような配慮をすればよいか、簡潔に記せ。

7 次の(1), (2)に答えよ。

- (1) 第2学年において、箏を用いた創作の授業を、第1学年での生徒の学習内容を踏まえて計画するとき、次の①～③に答えよ。

〔第1学年での生徒の学習内容〕

生徒は器楽の学習において、箏で『さくらさくら』を演奏している。音色や響きを意識して旋律を演奏することができた。また、創作の学習において、反復、変化、対象などを用いた16小節程度の旋律創作を経験している。リズムと構成を思考・判断のよりどころとして、個人で作品を創作することができた。

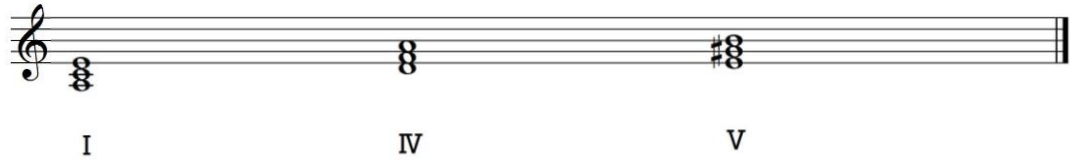
- ① あなたがこの授業を計画する場合、どのような課題や条件を設定するか、記せ。
- ② 生徒が、まとまりのある創作表現を創意工夫することができるようにするには、どのような指導の工夫が考えられるか、記せ。
- ③ 創作分野における技能の評価を行うときの留意点を記せ。

- (2) 次は、中学校学習指導要領「第2章 第5節 音楽」の「第2 各学年の目標及び内容〔第1学年〕2内容」の「B鑑賞」である。第1学年において、指導事項ア(ウ)及びイ(ウ)を身に付けさせようとする2時間の授業を計画する。下の①～③に答えよ。

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
- (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
- (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割
- (ウ) 音楽表現の共通性や固有性
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
- (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
- (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり
- (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

- ① 授業で扱う教材として、ケチャとホーミーを用いることとした。それぞれどこの国の音楽か、国名を記せ。
- ② ①の教材と比較して鑑賞するために、我が国の民謡を用いることとした。あなたならどの民謡を用いるか、曲名を一つ記せ。また、その理由を簡潔に説明せよ。
- ③ あなたがこの授業を計画する場合、題材の学習目標を記せ。また、学習目標を達成するための学習内容と活動を具体的に記せ。ただし、2時間のうちどちらかに、体験的な活動もしくは仲間と協働する活動を入れること。

中学校音楽 解答例

1	(1)	サムホールにわずかな隙間をつくる運指で、高音を演奏する際に用いる。			3点			
	(2)	一曲がいくつかの段（部分）からなる、歌の入らない器楽曲。			3点			
	(3)	読み方：アッラルガンド	意味：強くしながらだんだん遅く		完全解答 3点			
	(4)	読み方：アンダンテ	意味：ゆっくり歩くような速さで		完全解答 3点			
	(5)				完全解答 3点			
2	(1)	シューベルト			2点			
	(2)				4点			
3	(1)	①	Dm	②	G	③	C7	各3点
	(2)	長胴太鼓			2点			
	(3)	①	中指	②	親指	③	薬指	各3点
4								4点

5	(1)	作詞者名 武島羽衣	作曲者名 滝廉太郎	各2点					
	(2)	①	最初の4小節がフォルテなのは、満開の桜が美しい織物のように見えるという歌詞から、目の前に広がる風景を表現するため。おぼろ月はぼんやりと光って見える月の様子を表すためにピアノにしている。		3点				
		②	歌詞の内容と旋律や強弱との関わりを理解させ、曲にふさわしい歌唱表現になるよう、実際に歌って試しながら指導する。その際、単にフォルテは強く、ピアノは弱くというだけにならないよう留意する。		3点				
6	(1)	①	感情	②	文化	③	質的	各3点	
		④	心	⑤	存在				
	(2)	変声に伴う不安や羞恥心をもつことがないよう配慮する。 変声中の生徒に対しては、無理のない声域や声量で歌わせるよう留意する。						3点	
7	(1)	①	「俳句に旋律をつける」という課題を設定する。 条件は、民謡音階・4分の4拍子・4小節以上で、言葉の抑揚を生かした旋律にすること。					3点	
		②	<ul style="list-style-type: none"> 複数の参考作品を例示し、「まとまりがある」と感じるものと「まとまりがない」と感じるものを比較し、工夫点を見出す。 第1学年の創作の学習の経験などを生かして、生徒の実態に応じた学習過程を工夫し、生徒が創作表現を創意工夫する楽しさや喜びを実感できるようにする。 					3点	
		③	創作分野における技能は、旋律や音楽をつくるために必要な技能であり、つくった作品を演奏することができる技能ではないことに留意する。					3点	
	(2)	①	ケチャ	インドネシア	ホーミー	モンゴル	完全解答 3点		
		②	曲名 八木節					完全解答	
			理由 声の出し方や母音を伸ばして装飾する歌い方などの特徴がわかりやすく、アジア地域の諸民族の音楽と比較しやすいから。					4点	
		③	題材の学習目標 音楽の特徴を聴き取り、それぞれのよさや美しさを味わうことができる。					3点	
	1時間目 「ケチャ」、「ホーミー」、「八木節」を鑑賞し、気付いたことや感じ取ったことを学級全体で意見交換する。 それぞれの音楽を真似して実際に声に出して体験し、発声や歌い方の違いなどを感じ取る。					4点			
	2時間目 それぞれの地域の暮らしや人々の様子、音楽の歴史などを学ぶ。 2時間目に学んだことと1時間目に感じ取ったことをもとに、それぞれの音楽のよさや美しさを自分の言葉でまとめる。					4点			